

# ほなみ通信

第99号

2023年6月15日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571

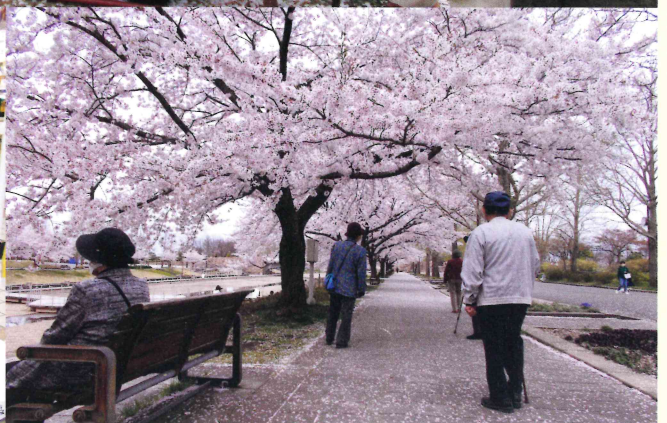


## ケアハウス穂波の里

4月6日 花見日帰り旅行



鳥屋野潟公園、県スポーツ公園、北山池公園で散り始めのきれいな桜を堪能し、新潟ふるさと村で休憩。一杯やりながらおいしい食事を食べ、お土産もいっぱい買ってきました。帰りがけ思い立って鷺ノ木水門にもドライブ花見をして、めいっぱい桜を楽しんで帰ってきました。





### コロナ禍とウクライナ戦争による物価高騰の影響と 坂井輪会の対応、今後の取り組みについて



社会福祉法人坂井輪会理事長  
細貝 昌明

新潟市において、2020年2月に最初の患者さんが確認されて以降、医療機関や介護施設でのクラスターが急速に拡大しました。五回のコロナワクチン接種をはじめとする感染予防対策で落ち着きを見せ始め、今年の5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に変更され、季節性インフルエンザと同じ扱いとなりました。完全に終息したわけではありませんが、コロナ禍の大きな影響についてまとめてみました。

まず第一に高齢者の方の感染予防のために、施設の対応として入居者とご家族との面会を中止しなくてはなりません。直接話すことで、ご本人の変化をご家族の方に知っていただく貴重な機会が奪われてしまいました。ご本人、ご家族、施設側との信頼関係を築ける唯一の方法である大切さを痛感させられました。第二に

施設内感染時は感染拡大防止のため、居室中心となり高齢者の行動制限を設けざるを得なかったことです。そのため身体機能の低下が著しく、転倒し易くなったり自分で食事がとれなくなる方もおられました。在宅生活を送られる方も認知症の進行や体力低下が顕著な方が増えていきます。第三に介護保険制度のもとで、介護施設の運営がままならない状況に陥ったことです。特別養護老人ホームでは、入居者が退所された後に新しい方の入所を進めるにあたって、必ず事前面接の訪問を行います。面接設備がないことから思うようにできず、その間の空床状態が長引きました。ショートステイではご利用者がこの場に留まらざるを得ない状況となり、新規の方の受け入れも中止しました。施設内感染が起きる都度この状態が続き、

クラスターともなれば長引き、今年度は全体の収入が昨年度よりも2000万円程落ち込みました。普通では考えられない事態です。国や厚労省は「かかり増し経費」を補助する名目で、人件費や感染予防材料の支援策を打ち出しました。しかし、新型コロナウイルス感染症に対する医療機関には、病床確保のための経営的支援策がとられませんでした。一方介護施設では施設内療養が主となり、入所者受け入れ制限、事業休止等を迫られた介護施設への経営的な支援は行われませんでした。坂井輪会も今なお、在宅系のサービス利用がコロナ禍前の稼働率に回復していません。ウクライナ戦争の影響による公共料金（主に電気、ガス）と食料料金を含むすべての商品の価格高騰のありを受けて支出がかさみ、光熱水費だけ見ても坂井輪会全体で昨年より40%（約1000万円程）を超える支出増となっております。

坂井輪会は、法人の理念である「安心して住み続けられるまちづくり」を目指してこの四半世紀事業を行ってきました。地域密着型特別養護老人ホームの建設や地域拠点づくり等に重点を置いて施設整備を進めてきましたが、残念ながら、在宅サービス事業の見直しや職員の待遇の見直しも行われなければなりません。複数運営していたケアマネやデイサービスの事業所の統合を始め、職員の退職共済の見直し、年間賞与の削減を含めた2023年度予算編成等、かつてなかったほどの財政支出削減に着手しています。介護保険制度が発足して20年、様々な改正が行われてきましたが、介護報酬に限っては下げられる一方です。介護保険料は制度発足当時の2倍近くとなり、自己負担額も次の改定では原則2割化が導入されようとしています。年々介護保険制度が使いづらくなっていると思つのは私だけでしょうか。2024年は介護報酬改定の年です。いつでもどこでも安心して介護保険が利用でき、サービスを提供する側の私たち介護職員も希望を持って働けるよう、抜本的な介護報酬の引き上げを切に希望します。



### 管理者交代のあいさつ

#### 地域包括支援センター五十嵐



センター長  
鈴木 由理

この春、地域包括支援センター五十嵐の管理者を拝命しました。地域包括支援センターに配属されて十三年を超え、支え合いのしくみづくり推進員との兼務も六年を超えました。これまでの経験をはじめの職員と共有しつつ、力を合わせて日々の業務に取り組んでいるところです。

地域包括支援センター五十嵐は開設から一年半を迎えました。経験の少ない若手のみならず、職員全員でスキルアップを図ることを意識して、内部研修など行っています。できるだけ全員が地域の集まりなどに出るようにもしてきました。少しずつ地域に顔なじみの方が増え、「いつまであの仮事務所にいるの」と親しみのこもった冗談をいただいたりするようにもなりました。

たくさんの方に「ああ、包括さんね」と覚えていただき、地域の

高齢者の相談窓口として気軽に声をかけていただけるよう、これからも職員みんなで取り組んで参ります。管理者としては、職員全員持てる力を発揮できるよう、少しでも支えになればと思います。



ケアマネ・サービス提供事業所合同学習会



基本チェックリスト実施（てらお西健康クラブ）

### 令和4年度 苦情処理 第三者委員会報告

日時 令和5年3月14日（火）  
13時～14時  
場所 道場山穂波の里4階  
出席 山田 豊（第三者委員）  
森田法子（第三者委員）  
古藤悦子（穂波の里施設長）  
皆川直史（道場山施設長）

今年度の苦情総件数は11件でした。

（内訳）  
ケアプランセンターたんぽぽ寺尾上 6件  
ショートステイ穂波の里 3件  
デイサービスセンター穂波の里1件  
穂波の里事務室 1件

ケアプランセンターたんぽぽ寺尾上の6件中5件は特定の職員に集中しており、サービス提供事業所やご家族への配慮に欠けた言動などへの苦情と、ご家族との約束事項を失念してしまったなどの調整不足や確認不足への苦情でした。6件目は別の職員で、ご利用

者が退院した後に「デイサービスへ再度行く事が出来るかどうか、返事を待っていたが連絡がなくて不安だった」という苦情でした。ショートステイ穂波の里の3件は請求間違いと衣類や書類の返却間違いによる苦情であり、利用者が帰る前のチェック方法を職員会議等で再度確認しています。デイサービスセンター穂波の里では、利用者自宅前に送迎車が停まっております。追い越していった車の運転手より「狭い道路でギリギリ通過したが仕事に遅れるところだった」と電話で苦情がありました。車の通行を妨げない場所に停車する必要があります。穂波の里事務室では、特養入居者のご家族より「受診が終わったので迎えに来てほしい」と電話で依頼されましたが、電話を受けた職員が送迎担当職員へ伝え忘れ、ご家族より「迎えが来ない」との苦情を受けました。第三者委員からは「ケアマネという職種は担当した利用者に責任を持つて対応するべきであり、失念することは責任を果たせていない」との意見をいただきました。また、「誰しも起こりえる事だが失念しないための対策を考えることが必要」との指摘を受けました。





### グループホーム穂波の里 手づくりサイコー!



### 特養 道場山穂波の里 生け花サークル再開

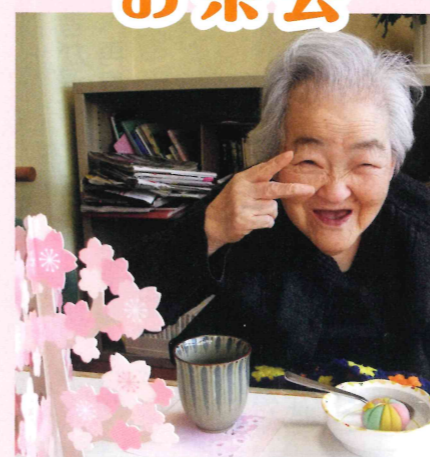
生け花を習っていた方も数人おられ、お隣の方に「濃い色の花は重たく見えるから、低くするのよ。」等、教えておられる様子もみられました。「懐かしいわね。」「やっぱり、お花は綺麗でいいわね。」と楽しんでおられました。



### 特養 穂波の里



### お茶会





〔在宅部門〕 注 ( )内の増減数は昨年度比 2022年度

デイサービス	
年間延べ利用者数	穂波の里 (定員30名) 6,789名 (1,006名減)
一日平均利用者数	18.8名
道場山 (定員12名)	
年間延べ利用者数	1,736名 (208名減)
一日平均利用者数	4.8名
たんぼぼ寺尾上 (定員15名)	
年間延べ利用者数	1,668名 (241名増)
一日平均利用者数	8.0名

配食サービス	
2023.3 利用実数	38名
年間延べ配食数	7,233食
委託業者	4,957食
自主事業	2,276食

ショートステイ	
年間延べ利用人数	8,945人 (831名減)
一日平均利用数	24.5名

〔ケアハウス〕		
2023.3 末	入居者数	40名
	自 立	11名
	要支援 1	4名
	要支援 2	11名
	要介護 1	10名
	要介護 2	4名

〔グループホーム〕		
2023.3 末	要介護 1	1名
	要介護 2	7名
	要介護 3	1名
	計	9名

ヘルパー穂波の里		
2023.3 利用実数		51名
年間延べ派遣	件数	延べ回数
介護給付身体介護	250件	1,699回
総合事業(現行相当)	392件	2,033回
ヘルパー事業の稼働時間		3,962時間
ヘルパー事業の廃止件数		20件

地域包括支援センター坂井輪	
総合相談(延べ件数)	4,774件
権利擁護(延べ件数)	556件
困難事例(ケアマネ支援・延べ件数)	311件
予防ケアプラン(2023.3.31現在)	92件

地域包括支援センター五十嵐	
総合相談(延べ件数)	5,734件
権利擁護(延べ件数)	203件
困難事例(ケアマネ支援・延べ件数)	223件
予防ケアプラン(2023.3.31現在)	85件

居宅介護支援事業(老人介護支援センター穂波の里)	
ケアプラン(2023.3)	1,410件

居宅介護支援事業(ケアプランセンターたんぼぼ寺尾上)	
ケアプラン(2023.2)	97件

〔道場山穂波の里入居部門〕		
2023.3 末	実 数	29名
	要介護 3	7名
	要介護 4	6名
	要介護 5	16名

2022年度 穂波の里1年間のまとめ

〔入居部門〕

①平均年齢

2021.3 末	88.5歳
2022.3 末	89.0歳
2023.3 末	89.1歳

②退去された方の状況

2021.3 末	18名(入院退去 10名 施設看取り 8名)
2022.3 末	14名(入院退去 8名 施設看取り 4名 療養型 2名)
2023.3 末	26名(入院退去 14名 施設看取り 11名 療養型 1名)

③要介護度(2023年3月現在)

要介護 2	1名
要介護 3	18名
要介護 4	33名
要介護 5	24名

平均介護度4.03 (前年度4.2)

④医療状況

入院 30件 (前年度32件)	経管栄養	0名
	胃ろう栄養	0名
	尿道カテーテル	3名

⑤入居申込数、待機者数

年間申込数(2022年度)	48名
2021年3月末現在待機者数	153名
2022年3月末現在待機者数	170名
2023年3月末現在待機者数	164名

⑥待機場所

介護老人保健施設	47名
介護療養型	5名
一般病院	16名
在宅(CH・GH・SS)	73名
その他	23名
待機数合計	164名

⑦リハビリ実施状況

作業リハ	延べ	702名
小集団リハ	延べ	1,485名
個別リハ	延べ	454名

※CH ケアハウス、GH グループホーム、SS ショートステイ

⑨入居者の会

世話人会	月1回
グループ会	各月2回(3グループ)

⑧サークル等

書道	延べ	192名
小集団リハビリ体操	延べ	1,485名
太極拳ゆったり体操	延べ	555名

⑩地域との連携  
地域との関わりについても、新型コロナウイルス感染症の影響から自粛が続き、穂波の里盆踊り大会やボランティア交流会、家族会総会等も開催できず、地域やご家族とのつながりも希薄になる一方でした。新型コロナウイルス感染症が5類に分類されたことから、盆踊り大会を復活させたいと思います。夏場は熱中症の心配もありますので、気候が穏やかな9月に「穂波の里盆踊り大会」をボランティアの皆様と計画しております。規模は縮小されますが、地域の皆様と笑顔あふれる盆踊り大会になればと思います。

施設運営への助成金としてボランティアほなみ様より20万円のご寄付を頂きました。ありがとうございました。

在宅部門

2022年度まとめと2023年度方針

2022年度も一昨年同様新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、在宅サービスに大きな影響が出ています。前年と比較してショートステイ8.6%↓、穂波の里デイ13%↓、道場山デイ11%↓と大幅なご利用人数減となっています。一方訪問介護は、若干派遣時間数が増加し、配食事業は延べ数で1,200食増となっています。2ヶ所の地域包括支援センターは、総合相談件数も合計で約9,000件と多くの高齢者やご家族から介護保険申請をはじめ様々な相談が寄せられ、総合相談窓口としての機能を如何なく発揮しています。

残念なことに同じく2ヶ所運営していたケアマネ事業所と基準緩和デイサービス事業所は、昨今の公共料金(主に電気、ガス)や食材料費を含むすべての商品の価格高騰のあおりを受けて支出が嵩み事業所を1ヶ所に集約し、デイサービスとショートステイの食費及び配食サービスの料金の見直しを行わざるを得なくなりました。

新年度は、大変厳しい事業運営となります。コロナも完全終息した訳ではありません。感染予防に十分留意しながら、在宅サービスの継続に努力していく所存です。

入居部門

2022年度まとめ

入居待機者数は163名。退所者数は26名、新入居者数は29名。施設で最期を迎えられた方は12名でした。入退所は前年の2.5倍で、新型コロナウイルス感染症の施設内療養を3度経験した事も要因と思います。多くの入居者・職員が感染し、協力医療機関より早期に特效薬を出して頂きました。内服で症状は軽減するものの、食欲・体力低下は著しく、回復にはかなりの時間を要し、日々の生活リズムの大切さを改めて学びました。ようやく面会再開となり、ご家族と過ごす皆様の表情が笑顔で生き生きしている姿に私達も嬉しく思います。

5月より厨房施設を自営から給食会社に委託することになりました。引き続き安全かつ入居者から喜ばれる食事の提供に努めてまいります。



## 新入職員紹介

特別養護老人ホーム穂波の里

介護職

山際 智子

五月一日から特別養護老人ホーム穂波の里で介護職として勤務する事になりました山際智子と申します。仕事に慣れるまでは皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、一日でも早く信頼される職員となれるよう、ご利用者に安心していただける関わりを意識して頑張りますのでどうかよろしくお願ひします。

特別養護老人ホーム道場山穂波の里

介護職

塩澤 洋

昨年7月より道場山穂波の里で勤務しております。こよなく野球とくにジャイアンツを愛する平凡な48歳です。

そんな中昨年11月に子供が産ま

れて、今ではジャイアンツ以上に愛するものになりました。休みの日はお出かけするのが楽しみです。これからは子供・奥さんを1位、ジャイアンツを2位に愛していきたいと思ひます。仕事の方は楽しく、ゆったりを自分の目標に頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

新入職員ではありませんが…

生活相談員兼  
介護支援専門員

渡邊 和美

この度、産休明けより特別養護老人ホーム道場山穂波の里の生活相談員兼介護支援専門員として復帰いたしました渡邊です。

道場山穂波の里には開設当初から約4年間、生活相談員兼介護支援専門員として勤務させていただきました。居宅ケアマネジャー、穂波の里での勤務を経て8年ぶりに戻ってきました。

私自身の生活スタイルも変わり、子育てと仕事の両立を頑張つていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

老人介護支援センター穂波の里

介護支援専門員

山形 香代子

令和5年5月1日より老人介護支援センター穂波の里でケアマネとして勤務させて頂く事になりました山形香代子と申します。

幼い頃から母の身体が弱く、母の為に出来る事はないかと考え、ヘルパーの資格を取り訪問介護を約12年。ケアマネの資格を取り5年になりました。

ご利用者、ご家族がご自宅で楽しいと感じる時間が持てるように、関わる各事業所等と情報を共有し、支援をしていきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

地域包括支援センター五十嵐

社会福祉士

石川 美加

今年の3月に地域包括支援センター五十嵐に入職しました石川美加と申します。若い頃は介護職員として介護施設で数年働いていました。その後、社会福祉士の資格を取得し、サービスタ付高齢者住宅で2年間生活相談員として福祉に携わってきました。介護保険関係にほとんど関わる事がなく、まだまだ新米ではありますが皆様の困りごとに対応できるように日々精進してまいりたいと思ひます。

## 広報委員紹介

今年度の広報委員7名です

古藤 (ケアハウス)

住川 (シヨートステイ)

木村 (グループホーム)

澁谷 (特養穂波の里)

前山 (道場山穂波の里)

武田 (事務総務)

梁取 (包括坂井輪)

よろしくお願ひいたします



労働時間の客観的把握に努めるため、5月よりタイムカードを導入しました。